

### 「きぼう」の実践紹介

外国人児童初期支援コース「きぼう」基本データ

#### 1 場所

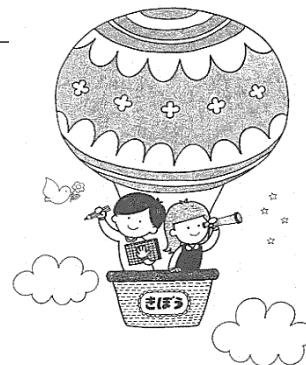
岩西小学校 南校舎1F (R2 開講 2年目)

#### 2 担当

塚田有希 丸山奈津子(岩西小職員)  
高橋ビッキー(ポルトガル語相談員) 伊藤ノルリン(タガログ語相談員)  
藤野冴富恵(「きぼう」コーディネーター)

#### 3 対象の小学校

豊橋市内の全小学校 3~6年生 (岩田小を除く)  
※岩西小の児童は徒歩、それ以外の児童は保護者または託児所の送迎で通級



指導について(指導日する日・期間)

- ・「きぼう」に登校:月~金※
- ※2・4週目の金曜日は在籍校に登校し、ソフトランディングを支援します。
- ・原則6週間(合計135時間の初期支援) ※詳細は「きぼう Q&A」(学校教育課)をご覧ください。
- 通級最終日(6週目の木曜日)に修了の会を行います。

#### 〔生活適応〕

放課の過ごし方、給食当番、掃除、避難訓練などを体験しながら、日本の学校生活を学びます。



「避難訓練」  
地震がきたらどうする？



「給食指導」  
白衣を着て、配膳を体験。



「清掃指導」  
そうじ道具の名前や使い方を覚えて毎日掃除。

#### 〔日本語・文字〕

実際的な場面や興味のある内容に関連付けて日本語を学びます。活動を通じて、日本語を使う経験をたくさんします。



ゲームをしながら楽しく言葉を覚えます！



習熟度別で文字の学習



仲間と関わり合いながら。

#### 〔教科の学習〕

母国で体験したことがない社会、理科、音楽や体育、図工などの教科を学習します。在籍学級で仲間と一緒に活動できるよう、授業で使われる日本語もあわせて学びます。



「体育」  
縄跳びに挑戦！



「理科」  
観察したことをまとめて発表します。



「書写」  
生まれて初めての習字♪

■「きぼう」では昨年度末に、通級児童の在籍校にアンケートを実施しました。アンケートにご協力いただいた小学校の皆様、ありがとうございました。今後の指導の参考にさせていただきます。

1	通級期間(6週間)について	・短い(45%) 適当(55%) 長い(0%)
2	隔週金曜日の在籍校登校について	・在籍校への適応のため有効で、現在のままでいい。(76%) ・在籍校適応のため、毎週する方がいい。(8%) ・児童の負担から、在籍校登校はやめた方がいい。(16%)
3	在籍校登校の金曜日に「きぼう」のスタッフが在籍校に訪問することについて	・児童の様子を聞くことができ有効である。(40%) ・通訳の支援があり有効である。(26%) ・教材や指導方法について相談ができ、有効である。(30%) ・対応する時間の確保が難しい。(4%) ・あまり有効性を感じられない。(0%)
4	「きぼう」終了後の指導について	・週あたりの指導時間数 1～3時間(0%) 4～6時間(61%) 7～9時間(6%) 10時間以上(33%)
5	児童の母語支援があるか	・ある学校(64%) ・ない学校(36%)

■自由記述で感想を書いていただきました。その一部を紹介します。

○一言で言うと「きぼう」があって大変よかったです。日本語の指導や支援だけでなく、「日本の学校」のスタイルを一から丁寧に、時間をかけて指導していただけたことで、6週間終了後の学校生活がとてもスムーズにスタートできたと感じています。国際教室がなく、教務主任が外国人児童生徒教育相談員の多大なる支援を受けながら取り出し指導を行っている本校にとって、「きぼう」はとても心強い存在でした。

○子どもの様子を伝えていただいた心温まる通信がとてもすばらしく、クラスの子どもに「どんな子だろう」という関心をもたせ、スムーズにクラスに受け入れる一助になったと思います。ありがとうございました。

## ニーニャ相談員のフィリピン紹介

こんにちは! タガログ語相談員の村田ニーニャです。私はフィリピンのセブ島から来ました。



今月はフィリピン人の大切な価値観の「4つのF」を紹介します。

【家族 family】:フィリピン人にとって最も大切な存在です。結婚しても実家を大切にします(子供が結婚しても親元から離れないこともあります)。家族愛の深い家庭が多いです。そのため、家族の生活を豊かにする為に海外に出稼ぎに行く人が多いです。家族を養うために、海外に仕事に出ていきます。

【信仰 faith】:フィリピンでは国民の80%以上がカトリック教徒で、東南アジア唯一のキリスト教の国です。スペインの植民地時代から現在までカトリック信仰が生活の基盤となっています。毎週日曜日には家族全員でミサに出席します。大型ショッピングセンターの中にも教会があります。町の体育館を使ってミサを開くこともあります。コロナ禍でもオンラインでミサをやっています。

【プライド face】:フィリピン人はアジア人ですが、性格はラテン系で、明るく、楽観的です。その一方、集団の前で怒られたり、大声で説教されたりするのは、フィリピン人にとって「ヒヤ・恥」です。「ヒヤ・恥」という言葉は、フィリピン人には、とても重く、プライドが傷つくことを嫌います。

【お祭 fiesta】:スペインの影響で、お祭りはフィリピン人には欠かせません。各都市でいろいろなお祭りが行われます。セブ島の「シヌログ」やマリラの「キアポ」は大きなお祭りです。地域全員で参加します。お祭りは神様への信仰と崇拝のために行なわれます。

皆さんにフィリピンのことをたくさん知って頂きたいです。

初期支援コースを見学したい方は、学校教育課まで、ご連絡下さい。  
派遣依頼書類をお送りします。 0532-51-2826(担当:柴田)